

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年6月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1571300241		
法人名	社会福祉法人つばめ福祉会		
事業所名	グループホーム白ふじ		
所在地	新潟県燕市秋葉町4丁目5番地19 (電話) 0256 62 3155		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	3月31日

【情報提供票より】(20 年 12 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人、非常勤 2人、常勤換算 3.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階	建ての 1 階 ~	2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 / 16,000 円	その他の経費(月額)	15,000 ~ 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	850 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 12 月現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立吉田病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

以前企業の社員寮だった建物をリフォームしてグループホームに作り替えているため、段差等も随所に見られるが、階段をスロープにしたり、職員が工夫して段差を解消するなど、利用者にとって安全で暮らしやすい環境づくりをしている。
ホームは閑静な住宅街の中にあるが、少し歩くと大きなスーパー等が近くにあり、生活の便は良い。また、ホームの向かいが中学校であり、生徒との交流が持たれている。
長年地域で福祉サービスを提供してきた社会福祉法人が運営しており、法人本部や、母体施設である特別養護老人ホーム、近くにある同法人のデイサービス事業所との協力体制が整備されている。法人本部に配置されたボランティアコーディネーターにより、多数のボランティアがホームにも訪れており、利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念」はホームの職員で検討し、より分かりやすく伝えやすいものを作り上げ、今後その浸透に向け取り組みもうとしているところである。「地域との連携」については、向かいの中学校との連携は、校長先生が運営推進会議のメンバーであることもあり交流が進んでいるが、地域との交流はこれから進めていこうというところである。「介護計画」には、見直しも含め作成が遅れているが、課題と認識しており早急に整備する予定である。また、安全管理面では、建物の構造上、夜間帯の状況把握が難しい面があるが、職員体制、居室の利用状況を含めて総合的に見直ししていく予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが評価を行い、自分の業務を振り返る機会とした。全職員の自己評価を管理者が取りまとめて、ホームとしての評価表を作成した。</p>
項	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>燕市との協議により、3カ月に1回運営推進会議を行っている。家族代表、自治会長、民生委員、向かいの中学校の校長、地域包括支援センター職員が参加している。会議で寄せられた意見等は職員に伝え、サービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームの玄関には苦情受付窓口が明示され、いつでも意見や要望を受け付ける体制を整備している。日頃から密に家族と連絡を取り合っており、意見や要望が寄せられた場合は随時運営に反映させている。年1回家族との懇親会も設け、意見等を聞く機会としている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームのある地域は新興住宅地であり、住民同士の交流や行事があまりなく、地域との交流が難しい状況がある。そのような状況の中でも、自治会長の協力を得て地域の下水道の掃除やゴミ拾いなどに参加するなど、できることから取り組んでいる。向かいにある中学校との交流も持ち、行事の招待を受けて参加したり、総合学習による訪問を受け入れるなどしている。放課後には生徒が遊びに来ることもある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

← 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、職員善でわかりやすい言葉でホーム独自の理念を作り、日々のサービス提供の中で活かしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回は必ず職員会議を行い、その中で理念を確認し、提供するサービスが理念に基づいたものとなるよう検討している。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族に向けて、ホームの広報紙を発行したり、年1回の懇談会時に理念を伝えるなどしている。		家族へは広報紙等で働きかけているが、地域の方への配布や回覧はまだ行っておらず、今後取り組んでいく意向である。地域に対し、ホームの理念を広く周知し浸透させるためのさらなる取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長の協力を得て、地域の下水道の掃除やゴミ拾いなどに参加している。向かいにある中学校との交流も持ち、行事の招待を受けて参加したり、中学生の訪問を受け入れるなどしている。放課後には生徒が遊びに来ることもある。		新興住宅地であり、地域の活動や交流がまだ活発でないという状況もあり、利用者と地域住民とが日常的に交流するには至っておらず、管理者も課題であると認識している。利用者が地域に出たり、隣近所の方と交流する機会づくりなど、少しずつでも関係を深めていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価を行って自分の業務を振り返り、全職員の自己評価を管理者が取りまとめて、ホームとしての評価表を作成した。		職員一人ひとりが評価を行って管理者がまとめたり、外部評価結果も職員に説明しているが、それについて職員間でゆっくり話し合う時間は設けていない。職員間で評価の意義や、評価を活かした取り組みについて話し合う機会を設け、サービス評価を質の向上にさらに結びつけていってほしい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこの意見をサービス向上に活かしている	燕市との協議により、3カ月に1回運営推進会議を行っている。家族代表、自治会長、民生委員、向かいの中学校の校長、地域包括支援センター職員が参加している。会議で寄せられた意見等は職員に伝え、サービスの向上につなげている。しかし、会議の記録が整備されていなかった。		会議録の作成が遅れている状況があるが、会議内容を正確に伝達・共有して、しっかりと運営に活かしていくためにも、会議録は速やかに整備することが望まれる。また、介護保険制度では2ヶ月に1回程度の開催が求められているところであり、今後、市とも話し合いながら開催頻度について検討することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム事業者による情報交換会が定期的開催されており、そこには市の担当職員も参加し、サービスの質の向上にむけて共に検討している。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人本部に「教育研修室」が設置され、新人・中堅職員・管理者等段階別の研修を計画的に行なっている。その中で、高齢者虐待に関する研修も毎年行い、職員の意識と理解を高めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態に関する家族への連絡は密に行っており、体調の変化等が見られた場合はすぐに連絡するようにしている。職員の異動はホーム便りで伝えている。ホームでは金銭の預かり等は行っており、本体施設である特別養護老人ホームで管理している。利用者個々の出納記録は、月1回家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には苦情受付窓口が明示され、いつでも意見や要望を受け付ける体制を整備している。日頃から密に家族と連絡を取り合っており、意見や要望が寄せられた場合は随時運営に反映させている。年1回家族との懇親会も設け、意見等を聞く機会としている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員から意見等を聞き、運営に反映させている。毎日の申し送りの際にも時間を設け、職員の話も聞いている。		管理者は職員と個別に話をする機会を持つよう努めているが、業務等の関係もあり、多くの時間を設けることはできない。また、職員会議も行っているが議題が多く、十分な意見交換ができていないと管理者も認識している。今後さらなる取り組みに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多数の事業所を運営する法人であり、職員の資質向上のため定期的に異動は行われている。異動の内示が出た段階で利用者、家族に早めに連絡し、影響を軽減するよう努めている。また、家族へは交流会や広報紙で正式に職員の異動について報告している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	必要なマニュアルが整備されている。実際の業務とマニュアルとの間で不都合が生じた場合、職員会議で検討し、随時マニュアルの変更や追加が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部に職員研修を統括する「教育研修室」が設置されており、新人・中堅・管理者等、段階や職種に応じた研修を準備している。また、職員の希望に応じた研修への参加や、資格取得にも配慮し、積極的に職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある他グループホームと3か月に1回情報交換会を行い、毎月1人ずつ職員の交換研修も行っている。情報交換会や交換研修により得た情報や気付きをホームの運営に活かすよう努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、日々の申し送りの中や月1回の職員会議などの機会に、職員の話聞くよう心がけている。現場の介護主任も、職員の業務上の悩み等を聞くよう努めている。また、法人本部に「心の相談室」を設置し、必要に応じて職員が産業カウンセラーに相談できる体制も整備している。		管理者は職員と個別に話をする機会を持つよう努めているが、業務等の関係もあり、多くの時間を設けることはできていない。また、職員会議も行っているが議題が多く、十分に話を聞くことができていないと管理者も認識している。職員のストレスや悩みの軽減につながるよう、今後さらなる取り組みに期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者については、居宅の担当介護支援専門員とも連携を図り、本人から見学等に来てもらうなどしながら、ホームの雰囲気を徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おはぎや笹団子、梅干し、干し柿づくりなどを一緒に行い、利用者のこれまでの経験や知恵を活かし、職員が教わる機会を設けている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族により、本人への思いや本人との関係性が異なるため、協力の働きかけなどは個々の家族の事情や思いを踏まえて対応している。利用者の健康状態等は密に連絡して情報共有するとともに、家族との懇談会を年に1回行って家族の思いや悩みを聞き、信頼関係の構築に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使用し、利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。普段の生活の中で、思いや意向を引き出せるような関わりをしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や、必要に応じてその後も、在宅時の担当介護支援専門員や地域包括支援センターと連絡を密にとり、利用に至る経過等の把握に努めている。また、センター方式のアセスメントも活用して、日々の関わりの中から本人の生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を収集している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりへの支援内容についての話し合いは職員間でなされているが、介護計画書は、以前の計画の有効期間が切れてから更新していない状態である。		管理者、職員ともに課題であると認識しており、早急に介護計画書を作成する予定である。介護計画はサービス提供の基本となるものなので、早急な整備が望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりへの支援内容についての話し合いは職員間でなされているが、介護計画書は、以前の計画の有効期間が切れてから更新していない状態である。		管理者、職員ともに課題であると認識しており、早急に介護計画書を作成する予定である。介護計画はサービス提供の基本となるものなので、早急に整備し、定期的および随時の見直しを確実に行うことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急の場合など、家族が受診に付き添えない場合は職員が受診支援をしている。また、法人本部のボランティアコーディネーターと連携し、利用者の希望に応じたボランティアを受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのそれぞれのかかりつけ医に継続して受診してもらっている。医療機関との連絡調整を密に行い、状況や必要に応じて受診支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取りは行わないという方針であり、重度化した場合は同法人内の複数の特別養護老人ホームと連携し、住み替えができるよう調整することとしている。法人・ホームの方針については、利用契約時に利用者、家族に口頭で説明している。		口頭での説明だけでは、利用者、家族との間に齟齬が生まれる可能性がある。利用者、家族のさらなる安心につながるよう、文書でも確認できるようにすることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物等個人情報管理のマニュアルが整備されている。個人情報のファイルは事務室のカギのかかる場所で管理し、来訪者の目に入る場所には利用者の氏名等を出さないよう配慮している。		利用者が近くにいる所で職員同士で話す時には利用者のプライバシーに配慮するよう促しているが、守られていない場面があると管理者は認識している。職員間でより一層意識を高め、取り組んでいくことを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、開設以来の利用者自身の生活の中から自然と出来上がった1日の流れを、日課として形に表したものである。この日課はあくまで基本的なものとし、日々の過ごし方や活動内容は、利用者の希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、混ぜる・こねる等の下ごしらえ、食後の片付け等は、利用者の希望やできることに応じて職員と一緒にやっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用して、利用者一人ひとりの排泄状況を細かくチェックし、排泄パターンを把握している。		排泄パターンを把握してはいるが、それを個々の支援に活用するには至っていない。把握した情報を活用し、できるだけオムツを使用しないことを含め、より自立した排泄への支援につなげていくことが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間に入浴してもらっている。昼の時間帯に入浴する人が多いが、夕方や夜間に入浴される方もいる。毎日の入浴を希望する場合も、希望に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業を長く経験された方には畑仕事を、家事手伝いの好きな方には洗濯を手伝ってもらい、料理の手伝いのできる方には料理を手伝ってもらいなどして、利用者個々の生活歴を活かして役割を作り、張り合いを持って生活してもらえよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望があれば、職員体制の許す限り希望に沿えるよう支援している。初詣や菊祭り、水族館などの外出行事も行い、楽しんでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部の「教育研修室」が企画する研修会に参加するなどして、身体拘束をしないことの重要性について理解を深め、日々サービスを提供する現場での振り返りを行っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないことの大切さを理解しており、日中は鍵をかけていない。戸には開けるとチャイムが鳴る装置をつけ、利用者の安全確保に努めている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等が発生した場合には報告書を作成して対応策を検討し、職員が共通の認識を持って事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行なっている	年に1回程度、職員が消防署に行って救急救命講習を受講している。また、法人本部が企画する緊急対応の研修会に参加し、吸引器の使用方法などを学んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	半年に1回、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。また、平成20年度から地域の防災会議ができたので、管理者が参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量を毎食記録し、栄養摂取状況を把握している。1日のトータル水分量も把握し、利用者の状態に応じて食事内容を変更している。法人の管理栄養士に献立を確認してもらい、カロリー計算も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングにはソファや畳スペースがあり、また、廊下に椅子を置くなどして、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる空間づくりをしている。ボランティアの方が手作りした装飾品や、利用者が行けた季節の花などが随所に飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広々としていて、畳スペースもあり、ゆっくりとくつろぐことができる。また、利用者が今まで使っていたタンスなどの家具も持ち込まれ、その人らしい居室づくりがなされている。</p>		